バリアフリーの街づくり取組み推進状況モニタリング現地確認結果報告書

資料２

|  |  |
| --- | --- |
| 対象事例名 | ファンケルメイクセミナー |
| 対象団体名 | 株式会社ファンケル |
| 現地確認日時 | 2019年3月22日（金）10：00～11：30 |
| モニタリンググループ | 〔リーダー名〕斉藤委員 |
| 〔メンバー名〕小木曽委員、鈴木（孝）委員、桑波田委員 |
| 検　　証　　項　　目 |
| 先進性 | 視覚障がい者であっても特別に対応するのではなく、一般対象のメイクセミナーと同様の考え方で取り組んでおり、バリアを感じないその進め方に先進性を見る。この場合、化粧品の判別に独自のシールを用意するなど、多くの工夫や配慮が特別としないことを可能にしている。 |
| 共感性 | 視覚障がい者であっても、当たり前に質の高い化粧ができるということで、これまでの「できない」「難しい」という概念を取り除いている。こうしてメイクをすることで、自信がつき、街に出ることが楽しくなるなど、内面のバリアフリーにもつながっている。特に化粧が終わった後の参加者全員の笑顔が印象的であった。 |
| 利用者の視点と県民ニーズの反映度 | セミナー運営者側の説明が具体的で、かつ分かり易く、参加者の立場に立ったキメ細かな対応がなされていた。例えば、化粧品の量を出す際の音による目安や紫外線対策やスキンケアの情報提供などを織り込むなど、運営者も参加者もお互いに楽しみながら取り組んでいた。 |
| 波及効果 | 視覚障がい者団体、福祉系大学や専門学校などでも同様のセミナーを開催しており、こうしたメイクセミナーが継続して実施されることで、社会的な理解（広がり）が進んでいる。同時に点字シートやボトルのデザインなどユニバーサルな製品開発にも繋がっており、また化粧品の量を音で判断できるといった仕組みは、今後、一般的な活用が期待される。 |
| その他 | 当日は、全盲の方１名、ロービジョンの方４名に対し、指導員が３名、東京ヘレン・ケラー協会の職員1名が対応しており、充実したスタッフの支援がみられた。そのため「視覚障がい」の特性を理解した上での指導が行われていた。その際、視覚障がいのためできない部分は支援しつつも、自分で化粧するための方法を的確に説明していた。 |
| 所見 | ■美容（メイクセミナー）を通してセミナー運営者は、視覚障がい者に対し楽しく、わかり易く化粧手順を説明し、実演していた。また参加した視覚障がい者は、改めて化粧する楽しさを感じているようで、セミナー中も笑い声が多く聞かれた。化粧が終わり、セミナーに参加した皆さんはとても明るい表情になり、それが強く印象に残った。（斉藤）■アイカラーをつける時も「薬指で２往復してください」など感触でメイクできる。（小木曽）■とても楽しい雰囲気で行われていたのが印象的。・スキンケアに関する小話が用意され、自然な流れで情報提供されていた。・ファンデーションの塗り方等は、指に手を添えながら伝えていた。・来年度から視覚障害の男性向け身だしなみセミナーを展開するとのこと。・継続することで、セミナーや商品が新たに開発され、BFと事業のリンクがうまくマッチングされている。（桑波田） |